

ちひろ没後50年 特別企画

mizkan
やがて、いのちに変わるもの。

ピエゾグラフによる

いわさきちひろ展



ぶどうを持つ少女 1973年

2024 9/14_土 ~ 10/20_日

開館時間 午前9時30分~午後5時
休館日 木曜日
会場 MIZKAN MUSEUM 内 MIM ホール
所在地 愛知県半田市 中村町 2-6
アクセス 名鉄河和線「知多半田」駅下車、徒歩13分
JR武豊線「半田」駅下車、徒歩3分
知多半島道路「半田中央I. C.」または「半田I. C.」より15分

入場料 無料(事前予約不要)
主催 MIZKAN MUSEUM、ちひろ美術館
後援 半田市教育委員会、中日新聞社
お問い合わせ 0569-24-5111

※MIMの通常見学コースは有料・事前予約が必要です。

MIM

検索



mim
MIZKAN MUSEUM



CHIHIRO ART MUSEUM TOKYO-AZUMINO

ピエゾグラフによる

いわさきちひろ展

— 子どもを見つめて —

いわさきちひろは、「子ども」を生涯のテーマとして描き、第二次世界大戦後、絵本や絵雑誌、教科書などで活躍しました。ちひろは、モデルなしで10カ月と1歳のあかちゃんを描き分けた観察力とデッサン力を駆使して、子どものあらゆる姿を描き出しました。青春時代に戦争を体験したちひろは、「世界中のこどもみんなに平和と しあわせを」ということばを残しています。ちひろが描いた子どもや花の絵は、いのちの輝き、平和の大切さを語りかけてきます。

本展では、自然のなかで遊ぶ子どもたちの姿やあかちゃんを描いた代表作のほか、絵本『ことりのくるひ』『戦火のなかの子どもたち』など30点の作品をピエゾグラフで紹介します。没後50年を経た今も、多くの人びとに愛され続けるちひろの絵の世界をお楽しみください。



湯あがりのあかちゃん 1971年

ピエゾグラフについて

ちひろ美術館では、2004年より、その時点の作品の状態をデジタル情報として記録し、保存していくアーカイブを続けてきました。同時に、そのデジタル情報をもとにして、「ピエゾグラフ」を制作しています。ピエゾグラフとは、耐光性のある微小インクドットによる精巧な画像表現で、ちひろの繊細な水彩画を高度に再現しています。

関連イベント MIMホール内 入場無料・事前予約不要

9/14 (土) ①11:00~ ②13:00~ ③14:30~

ちひろ美術館学芸員によるギャラリートーク

いわさきちひろ (1918~1974)

福井県武生(現・越前市)に生まれ、東京で育つ。

東京府立第六高等女学校卒。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1950年、紙芝居「お母さんの話」を出版、文部大臣賞受賞。

1956年小学館児童文化賞、1961年産経児童出版文化賞、1973年『ことりのくるひ』(至光社)でポーロニャ国際児童図書展グラフィック賞等を受賞。代表作に『おふろでちゃぶちゃぶ』(童心社)、『あめのひのおるすばん』(至光社)、『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)などがある。



1973年4月(54歳)